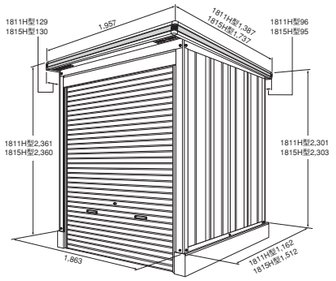
ヨド物置 エルモ シャッター

単棟型〈土間タイプ〉

組立説明書 LOC(U)-1811HD型・1815HD型

このたびは「ヨド物置」をお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。
組み立てる前に、この「組立説明書」をかならずお読みください。



鍵は、シャッターの裏面に貼り付けてあります。
※この組立説明書は「1815HD」の組立手順を基本に説明しております。

設置場所の制限

⚠注意

- ●建物の屋上には設置しないでください。
- ●バルコニー等の避難通路にあたる場所には設置しないでください。
- ●大屋根からの雨水や雪が、直接物置の屋根に落ちる場所には、設置しないでください。
- ●屋のふち・風当たりの強い場所等安全の確認のできない場所には、設置しないでください。
- ●給湯器の前には設置しないでください。

組立施工の際には

⚠注意

- ●アンカー工事等の転倒防止工事を必ず行ってください。

お願い

- ●重量物・長尺物は運搬・据付の際に複数人数で行い、振り回したり落としたりしないよう注意してください。
- ●組立の際には手袋を着用してください。
- ●風の強い日・雨の日は、組立作業をさけてください。
- ●高い足場が必要なときは、踏み台・脚立等安定した足場を使用してください。
- ●組立後、各部のボルト・金具の忘れやゆるみがないか確認してください。

〈施工にあたって〉

1.まず、御注文通りの商品かどうかを確認してください。
2.基礎は鉄筋コンクリート製の布基礎とし、施工前に必ず各寸法や水平を確認してください。正確でない場合、建付けが悪くなります。
3.本体寸法を参考にし、組立てに支障のない程度のスペースを確保してください。
4.部材の共通化のために、実際には使用しない孔のあいている部材がありますので、説明書に従って組立てしてください。
5.部材は、すべて、鋼製ですので手を切らないようくれぐれもご注意ください。
（安全のため必ず手袋を着用してください。）
6.部材名称の右・左は、正面に向かって右側に取付く部材を右、左側に取付く部材を左とします。（シャッター部材は逆になります。）
7.部材の組立では、ボルトの孔を合わせて組立てください。ボルト孔が合わなくなった場合は、ボルトをゆるめ、ボルトの孔位置を合わせてください。

梱包組合せ表

機種＼梱包	部品	前後材	左右材 一般	左右材 豪雪	柱	補強 一般	補強 豪雪	屋根	壁	鼻隠し	シャッター	棚板	計
1811HD型	LO3-0137	LO3-0263	LO3-0363	LO3-0383	LO3-0452	LO3-5501	LO3-5551	LM3-0930	LM3-1064 LM3-1073	LO3-1153	LO3-1733 LO3-1734	LM3-1903	12(12)
1815HD型	LO3-0137	LO3-0263	LO3-0364	LO3-0384	LO3-0452	LO3-5501	LO3-5551	LM3-0916	LM3-1063 LM3-1063 LM3-1071	LO3-1153	LO3-1733 LO3-1734	LM3-1903	13(13)

※合計のカッコ内の数は、豪雪型の梱包数を表しています。

◎シャッター200ミリ延長（オプション）の場合は、シャッター梱包が異なります。LO3-1733・1734をLO3-1735・1736に変更して下さい。組立て手順は標準品と同じです。

梱包内容表

●部品

LO3-0137 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
LOC下側縦金具（右）	1
LOC下側縦金具（左）	1
LOC下側縦金具 取（左）	1
ELC 樋受け N 右	3
ELC 樋受け N 左	3
S N 床押え金具	3
間 柱 金 具 ③	2
屋 根 止 め 金 具	13
丁 型 ス パ ナ 0 4	1
＋ドライバー 0 4	1
水 準 器 0 4	1
取 付 け ベ ー ス 0 4	1
型パネル止め金具	42
アンカーボルトM6×40	4
SHレール取付金具 A 右	1
SHレール取付金具 A 左	1
ELC下枠間隔受け 右	1
ELC下枠間隔受け 左	1
LOC 下枠間隔受け前右	1
LOC 下枠間隔受け前左	1
セルスボルトM6×15G	134
フランジナットM6×16	7
セルスボルトM8×21G	5
コ ー キ ン グ	1
重量LOC-1811・1815D専用	1
樹脂カバ-LOC-1811・1815D	1
取扱説明書LOC-08	1
保証書 LOC 2年	1
ソフトテープL=1800	2

●前後材

LO3-0263 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
LOC下枠後 A2.5（上間）	1
LOC上枠前 A2.5	1
ELC上枠後 A2.5	1
LOC上枠補強 A2.5	1
LOC水切り 後 A2.5	1

●左右材

LO3-0363 (1811HD（一般地）) 部材名	数量
LOC下側縦 A1.5(右)(左)(上間)	5(6)
ELC上枠左 A1.5	1
ELC上枠右 A1.5	1
ELC間柱 横 中 A1.5 H	2
LOC水切り横 右(左) A1.5	5(6)

LO3-0364 (1815HD（一般地）) 部材名	数量
LOC下側縦 A2.0(上間)	2
ELC上枠左 A2.0	1
ELC上枠右 A2.0	1
ELC間柱横 中2.0・4.0H	2
LOC水切り横 右(左) A2.0	5(6)

LO3-0383 (1811HD（豪雪地）) 部材名	数量
LOC下側縦 A1.5(右)(左)(上間)	5(6)
ELC上枠左 A1.5	1
ELC上枠右 A1.5	1
ELC間柱 横 中 1.5 H	2
LOC水切り横 右(左) A1.5	5(6)

LO3-0384 (1815HD（豪雪地）) 部材名	数量
LOC下側縦 A2.0(上間)	2
ELC上枠左 A2.0	1
ELC上枠右 A2.0	1
ELC間柱横 中2.0・4.0H	2
LOC水切り横 右(左) A2.0	5(6)

●鼻隠し

LO3-1153 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
ELC鼻隠し前 A2.5	1
ELC鼻隠し後 A2.5	1
E L C 換 気 粒	2
L O C 樋 板 A2.5	1

●柱

LO3-0452 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
LOC柱前右用（上間）	1
LOC柱前左用（上間）	1
E L C 柱 後 用 H	2
E L C 間 柱 後 用	2
LOC柱前補強カバー（上間）	5(6)

●補強

LO3-5501 (1811HD（一般地）・1815HD（一般地）) 部材名	数量
ELC はり BC(S) A2.5	1

LO3-5551 (1811HD（豪雪地）・1815HD（豪雪地）) 部材名	数量
LOC はり BC A2.5U	1

●屋根

LM3-0916 (1815HD) 部材名	数量
ELC屋根板・大・A2.0	1
ELC屋根板・小・A2.0	4

LM3-0930 (1811HD) 部材名	数量
ELC屋根板・大・A1.5	1
ELC屋根板・小・A1.5	4

●壁

LM3-1063 (1815HD) 部材名	数量
E L C 壁 H・A	3

LM3-1064 (1811HD) 部材名	数量
E L C 壁 H・A	4

LM3-1071 (1815HD) 部材名	数量
E L C 壁 H・F	1

LM3-1073 (1811HD) 部材名	数量
E L C 壁 H・F	3

●シャッター

LO3-1733 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
シャフト A1.5（上間）スラット(9枚)	一式
ブ ラ ケ ッ ト 右	1
ブ ラ ケ ッ ト 左	1
サイドレール（上間）右	1
サイドレール（上間）左	1
フック棒（L=600）	1
差 し 込 み ガ イ ド	1

LO3-1734 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
スラット A2.5（18枚）	一式
水切りスラット A2.5（10枚）	一式

LO3-1735 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
シャフト A1.5（長尺200）スラット(9枚)	一式
ブ ラ ケ ッ ト 右	1
ブ ラ ケ ッ ト 左	1
サイドレール（上間+200）左	1
サイドレール（上間+200）左	1
フック棒（L=600）	1
差 し 込 み ガ イ ド	1

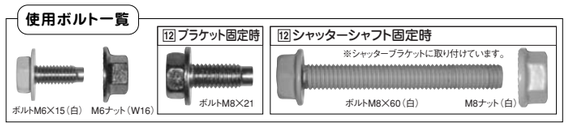
LO3-1736 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
スラット A2.5（22枚）	一式
水切りスラット A2.5（10枚）	一式

●棚板

LM3-1903 (1811HD・1815HD) 部材名	数量
ELC棚板 A2.0N	2

○部材名称には A4.0等の記号がついた部材がありますが、これらは部材の長さの記号であり説明書文中では省略しております。

使用ボルト一覧

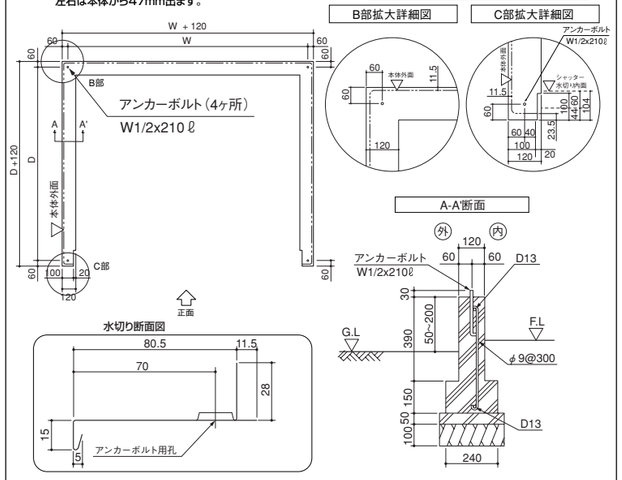


⚠注意 強風地、寒冷地等に設置する場合、現地の実情（基準風速・凍上による不陸など）にあわせて設計・施工してください。

1 基礎施工例

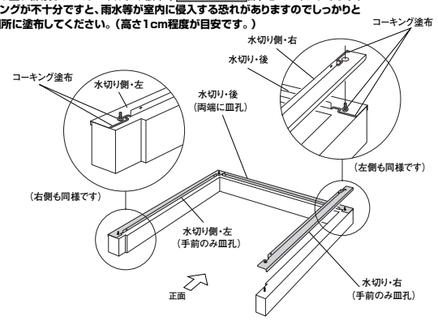
機 種	W	D
LOC(U)-1811H	1765.5	1076.5
LOC(U)-1815H	1765.5	1427

◎基礎はGLから50mm以上立ち上げてください。
屋根の出は左の姿図を参照してください。
左右は本体から47mm出ます。



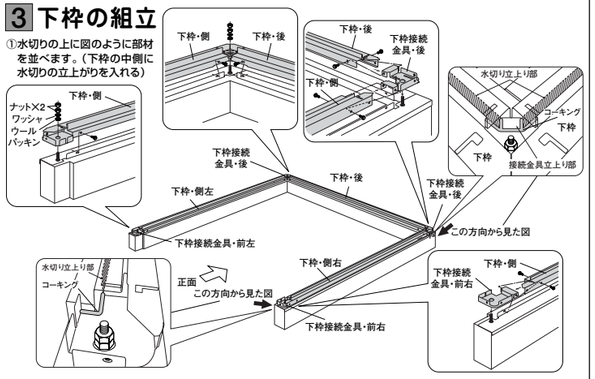
2 水切りの取付け

①水切りをアンカーボルトにセットします。水切り・後、水切り・右（左）の順にセットしてください。水切り・右（左）は、手前のみ皿孔で、奥は丸孔になります。
②水切りの重ね部及びアンカーボルトの根本（　　部）をコーキングします。
※コーキングが不十分ですと、雨水等が室内に侵入する恐れがありますのでしっかりと必要個所に塗布してください。（高さ1cm程度が目安です。）



3 下枠の組立

①水切りの上に図のように部材を並べます。（下枠の中側に水切りの立上がりを入れる）



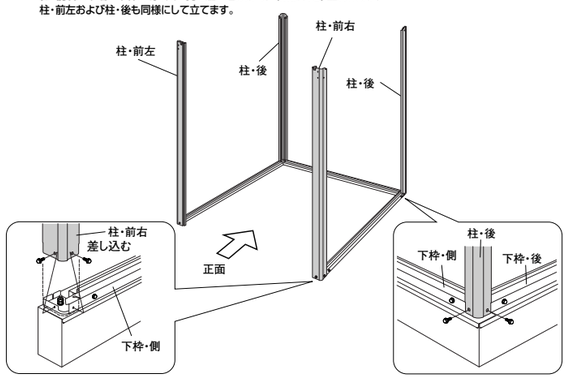
②下枠接続金具・後に下枠・側および下枠・後を差込んでから、アンカーボルトに通します。同様に下枠接続金具・前右（左）に下枠・側を差込んでアンカーボルトに通します。
③下枠接続金具と下枠をボルト（M6×15）で固定し、アンカーボルトにウールパッキン、ワッシャ、ナットW1/2×2で固定します。
④下枠接続金具・前後と水切り立ち上がり部にコーキングします。
※コーキングが不十分ですと、水漏れの原因となります。（高さ1cm程度が目安）

注意 アンカーボルトのモルタルが固まる前に物置の組立てを行う場合、ウールパッキンの代わりにコーキングをしてください。

1815H型の下枠側は左右共通です。

4 柱の組立

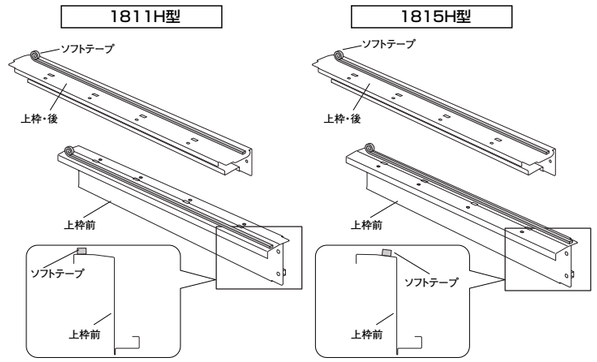
柱・前右の下端を下枠の切り欠き孔に差し込みボルト（M6×15）止めします。
柱・前左および柱・後も同様にして立てます。



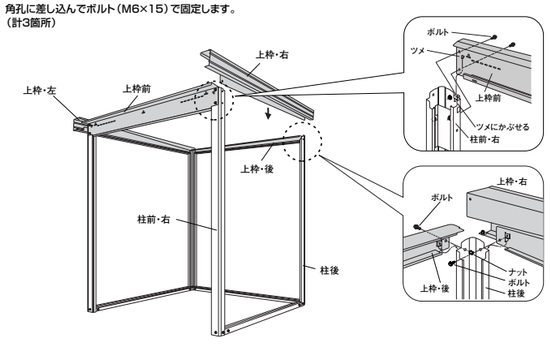
5 上枠の組立

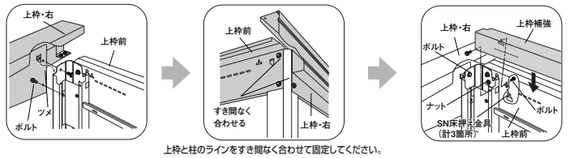
①**ソフトテープを上枠前**および**上枠・後**に貼付けます。

注意 ソフトテープを貼る位置は、機種により異なりますので間違わないようにしてください。
ソフトテープはしっかりと貼付けてください。



②**上枠前を柱前右、左**にツメをかぶせて、ボルト（M6×15）止めします。
上枠・後のツメを柱・後に引っかけ、ボルト（M6×15）・ナット（M6W16）で止めます。
③**上枠・右、上枠・左**も同様に取付けます。
④**上枠補強**を室内側から柱前にのせ、ボルト（M6×15）・ナット（M6W16）で固定し、SN床押え金具を角孔に差し込んでボルト（M6×15）で固定します。
（計3箇所）

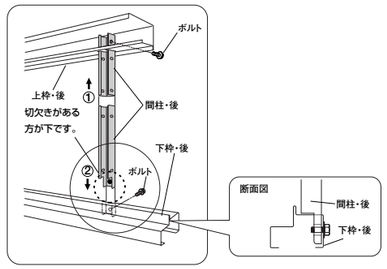




上枠と柱のラインをすき間なく合わせて固定してください。

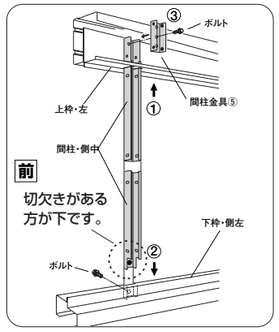
6 間柱後の組立

①**間柱・後**の上端を**上枠・後**に、差し込みます。
②下端を**下枠・後**に差し込んで上下共ボルト（M6×15）止めします。



7 間柱側の組立

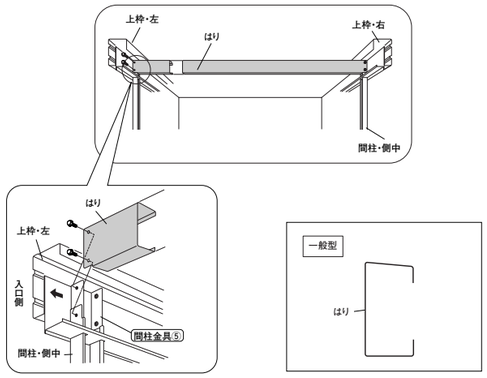
①**間柱・側中**の上端を**上枠・左（右）**に、差し込みます。
②下端を**下枠・側左（右）**に差し込みボルト止めします。
③上端に**間柱金具⑤**をはめこみ、中央の孔で内側からボルト止めします。



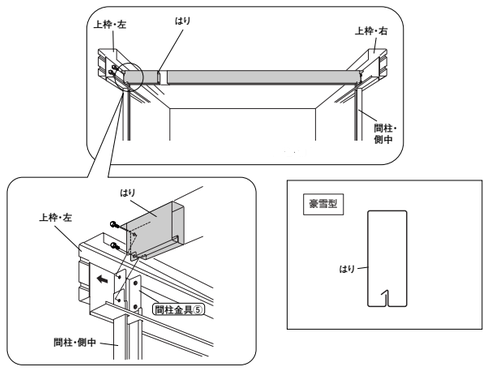
8 はりの組立

①**はり**の取付け
両側の**間柱・側中**の上に**はり**（「一般型」「豪雪型」表示があるはり）をのせてボルト（M6×15）で止めます。はりの向きに注意してください。

（一般型）



（豪雪型）

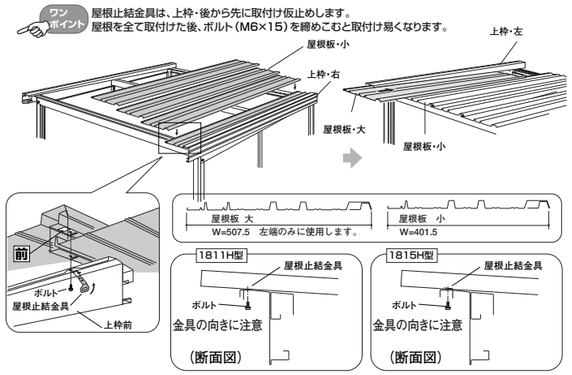


9 屋根板の取付け

①**屋根板**は、物置に向かって右端から**屋根板・小**を順に取付けて行き、（1枚目～4枚目）左端に**屋根板・大**（5枚目のみ）を取付けます。この時 前 のマークの入っている方を前にします。
②隣同志の屋根板の**角孔**と**上枠・後の角孔**に屋根止結金具を通しボルト（M6×15）で仮止めします。**上枠前**も同様に仮止めします。（計8ヶ所）

注意 ソフトテープを破損しないように屋根を取付けてください。

ワンポイント 屋根止結金具は、上枠・後から先に取付け仮止めします。
屋根を全て取付けた後、ボルト（M6×15）を締めこむと取付け易くなります。

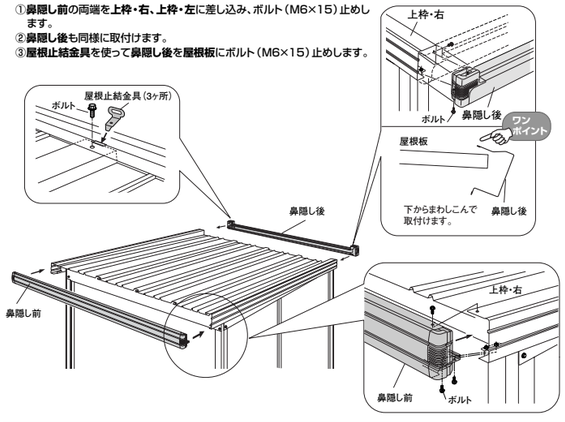


注意 屋根止結金具の向きを確認して取付けてください。
1811H型と1815H型とでは屋根勾配が変わるため屋根止結金具の向きが変わります。

10 鼻隠しの取付け

注意 オプショントイを取付ける場合は、「オプショントイセット」組立説明書を先にお読みください。

①**鼻隠し前**の両端を**上枠・右、上枠・左**に差し込み、ボルト（M6×15）止めします。
②**鼻隠し後**も同様に取付けます。
③**屋根止結金具**を使って**鼻隠し後**を**屋根板**にボルト（M6×15）止めします。

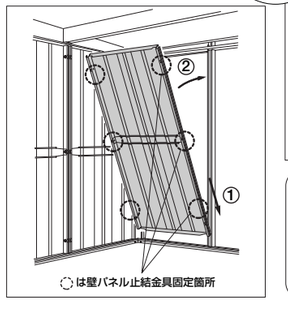


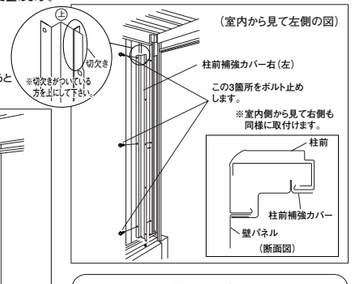
11 壁パネル・柱前補強カバーの取付け

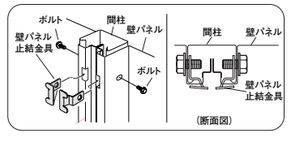
①室内から**壁パネル**（Ⓐ壁・Ⓕ壁の2種類があります）をはめ込みます。下を先に入れて、上をはめ込みます。
②上下中央の3ヶ所を**壁パネル止結金具**でボルト（M6×15）止めします。
③**柱前補強カバー**を壁のフランジと柱前にかぶせて壁パネル側（3箇所）のみボルト（M6×15）で止めます。
（壁パネル止結金具は使いません。）

注意 壁パネルには上下がありますので注意してください。壁パネルと下枠に三角形状のすきまが発生したら隣同士の壁パネル止結金具の角孔が上下方向にずれる場合は、基礎の水平、本体の立ちを確認してください。

ワンポイント 壁パネルが取付けにくい場合、屋根止結金具のボルトを緩めると取付けやすくなります。

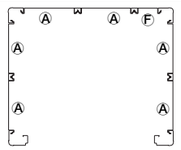




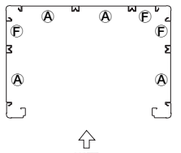


壁パネルの取付位置

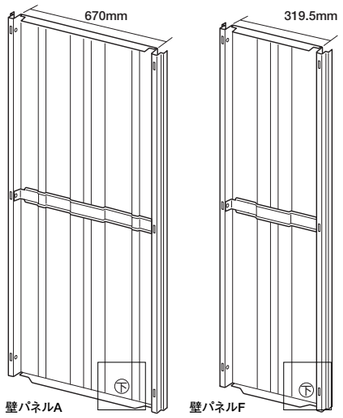
1815Hの場合



1811Hの場合



壁パネルの種類

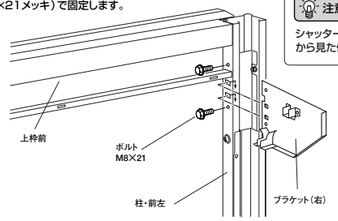


表示のある方が下です。

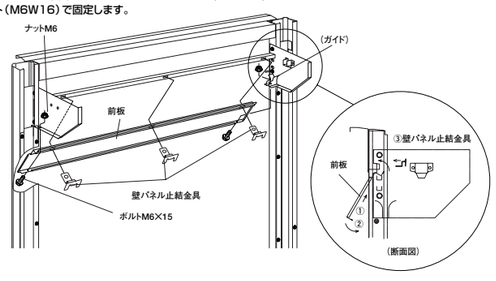
12 シャッターの取付け（1）

①ブラケットのツメを柱前の角孔に引っかけ、ボルト（M8×21メッキ）で固定します。

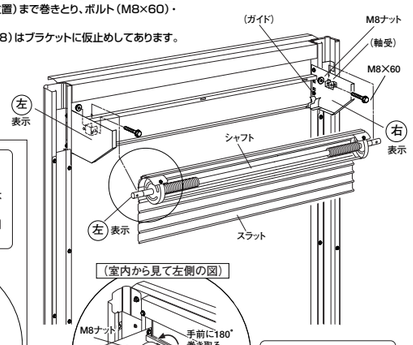
注意 シャッター部材の㊧・㊨の表示は室内から見た位置を示しています。



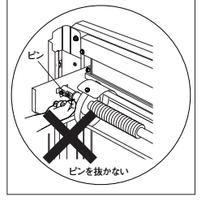
②前板を壁パネル止結金具で上枠前に引っかけ、ボルト（M6×15）で固定します。下面はブラケットのガイドにボルト（M6×15）、ナット（M6W16）で固定します。

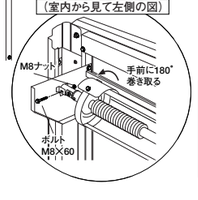


③スラットをガイドに通して、シャフトをブラケットの軸受にのせます。
④スラットをガイドに通しながらシャフトの㊧表示が室内側に向く位置（180°室内側に巻き取った位置）まで巻きとり、ボルト（M8×60）・ナット（M8）で固定します。
※ボルト（M8×60）・ナット（M8）はブラケットに仮止めしてあります。



⚠警告
この状態では、ピンを絶対にはずさないでください。
ピンをはずすとシャフトが急回転して非常に危険です。

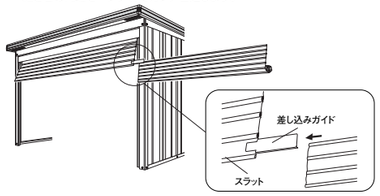


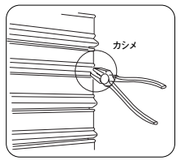


⚠警告
シャフトの（左）（右）を確認してください。逆さに取付けると、シャフトが逆回転して非常に危険です。

13 シャッターの取付け（2）

①スラットを差し込みガイドを使って順次差し込んで行き、継ぎ目の両端をペンチ等でカシメ固定します。

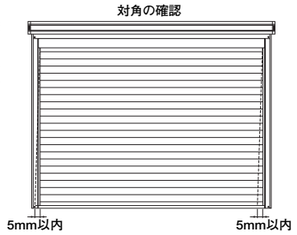




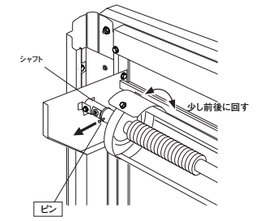
②スラットをおろし柱とゆがみがないか確認してください。
※柱の傾きが5mmを越えるとシャッターの開閉に、支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行ってください。尚、レール間ピッチも上下とも5mm以内で施工してください。

注意 柱が広すぎると鍵がかからなくなるだけでなく、強風時にスラットがレールから抜ける場合があります。

対角の確認

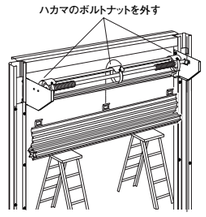


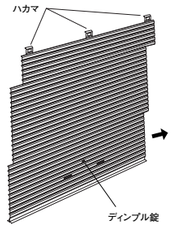
③シャフトを少し回転させた状態でピンを抜き取ります。



⚠警告
スラットの取付けが完了してからピンをはずして下さい。
完了する前にピンをはずすとシャフトが急回転し非常に危険です。

注意
スラットは、3分割されておりシャフトを取り付けた後、左（又は右）から差し込みガイドを使って順次差し込んで行くようになっています。差し込むスペースがない場合は、ハカマを取付けているボルトをはずし、スラットを一体にしてからシャフトに取付け直してください。

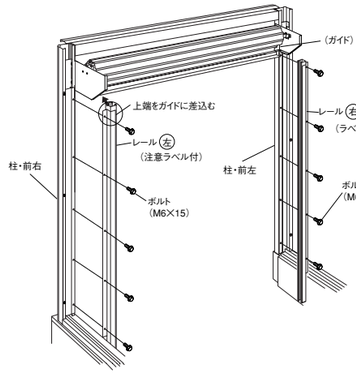


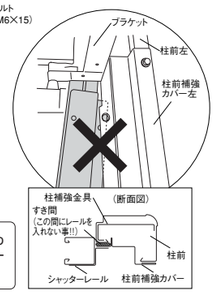


14 シャッターの取付け（3）

①スラットを、ブラケットのガイドに通しながら巻き上げます。
②レール左（右）の下端を床高さに合わせて切断します。
③レール左の注意ラベルを室内に向けて、上端をブラケットのガイドに差し込んで、柱・前右にボルトで固定します。レール右（ラベルなし）も同様に取付けます。

注意
レール下端を床に埋め込まないでください。錠スラットの交換などの際に、レールの取り外しができなくなります。

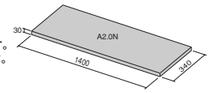




注意 柱前と柱前補強カバーの間にはわずかな隙間がありますが、レールを取り付ける際は必ず柱前補強カバーの上に重ねてボルト止めしてください。

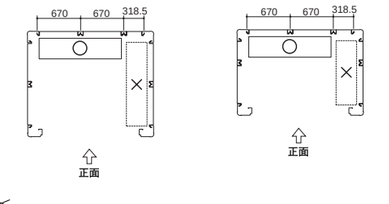
15 棚板の取付け

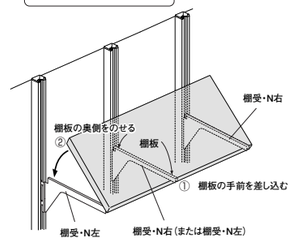
①**棚受**を図の様に壁パネルの角孔に差し込みます。
②**棚板**を棚受の先端に差し込んでから取付けます。
（標準で棚板A2.0が2枚付いています。）

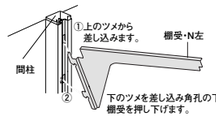


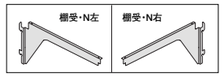
注意
●前柱部分（正面側）には取付けできません。
●棚板A2.0は壁パネルの内内寸法669mm（壁パネルA）が2つ並んでいる箇所に取付け出来ます。内内寸法が318.5mm（壁パネルF）の位置には取付け出来ません。
●F壁部分に棚板を取付けたい場合は、オプション棚A1.5Nをご利用下さい。

棚板が取り付けられる位置







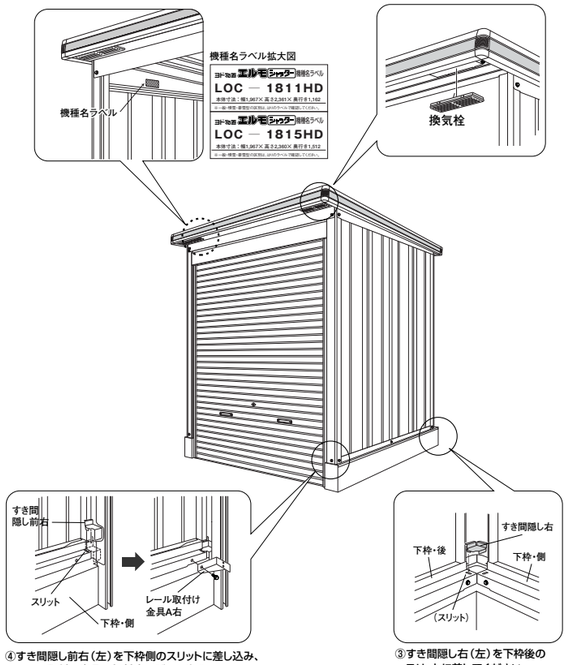


16 その他の部品取付け

注意 機種名ラベルは必ず貼付けてください。

①取扱説明書に同封の機種名ラベルを上枠左の室内側に貼ります。
ご購入の機種名が入っている方を貼ってください。

②換気栓（左右共通）をはめ込みます。
※換気栓には前後があります。製品の内側にある刻印で確認してください。



④すき間隠し前右（左）を下枠側のスリットに差し込み、レール取付け金具A右（左）をボルト止めします。

③すき間隠し右（左）を下枠後のスリットに差してください。

17 完成

余分にはみ出したコーキングは取り除いてください。
最後に、ボルトのゆるみがないかどうかもう一度確認してください。

この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています

お客様へ 組立説明書と取扱説明書は大切に保管してください。
施工業者の方へ 取扱説明書は大切な書類です。本書と取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

シャッター単機（土間）
1811HD・1815HD
ヨドコウ
淀川製鋼
（2008.11月制作）